

シンガポール便り

東京玉翠会シンガポール支部事務局
たちばな まさき
橘将基 (平成5年卒)



第35回東京玉翠会総会が本年も例年通り盛大に開催されますこと、北緯1.2度、常夏の国シンガポールからお祝い申し上げます。今年は、私を含む平成5年卒業生が幹事の年ですので、シンガポール在住歴6年目の私が、日本の皆様にはあまり馴染みないであろうシンガポールの自動車事情に関してレポートさせていただきます。

I. うどん55, 555杯分の車

シンガポールと言えば、皆さん何を思い浮かべますか？

某携帯電話のCMで一躍有名になった、舟形のプールの載っているホテル、マリナーベイサンズ？ それとも、世界三大ガッカリ名所の一つのマーライオン？（ちなみに酔っ払って町中でマーライオンやると逮捕、豚小屋行きです、この国。恐ろしい）

実は、自動車が世界一高い国でもあるのです。

シンガポール国内には95万6,430台（2016年末）しか自動車がありません。自家用車に限って言うとシンガポールは一人あたり約0.1台、シンガポールと同じ大きさの東京23区では一人あたり2.2台だそうです（在シンガポール日本大使館2012年3月データ）。この小さな国土の中で増えすぎると様々な弊害が出るため、陸運庁（LTA）というお役所が台数をコントロールしているのです。

どうやるかという、COEと呼ばれるナンバープレートが入札制なのです。その落札価格は日々株価のように動いており、最も高かった2013年頃は9.5万ドル（=約750万円）、ここ最近では5万ドル（=約450万円）前後で推移し

ています。しかも、こんなに高いのに10年しか使えません。10年以内に自動車を手放す際は、このCOEまで取り上げられ、新しく車を買うときには、またCOEを取り直さなくてはなりません。

さらには自動車本体の価格も、弘法大師ですら激怒するほど高いのです。輸入税が本体価格の20%、消費税7%、登録料が140ドル、追加登録料が本体価格の100~180%必要で、トヨタのヴィッツがだいたい1000万円すると思ってください。うどん何杯食えると思っとるんや…（さか枝のかけうどんが55,555杯いただけます）

さらには、高速道路はタダなのですが、ERPというETC的なシステムが街の中心地にあり、中心部に入るたびに最大6ドル（=約480円）取られます。

一番安いクラスの自動車ですら1000万円前後の金額を支払わないといけないうのに、この国ではフェラーリ、ランボルギーニ、マクラーレンなどの超高級車が全く珍しくありません。外に出れば、少なくとも1台は見かけるような状況です。何千万もするランボルギーニの天井を机代わりに使って書類にサインする人までいたりします。



超高級車の天井で書類にサイン

たしかにこの国は、相続税・贈与税無し、キャピタルゲイン税もゼロ、所得税は最高で22%で、お金持ちが生まれやすい土壌があり、日本には約1%しかいないと言われている現預金資産100万ドル以上を持つ億万長者が18%もいると言われています。とはいえ、残りの一般の方々にとっては、自動車は高嶺の花であることは間違いありません。

この国の上手なところは、我々のような一般人のために、公共交通機関を限りなく安く提供しているところです。現在6路線ある地下鉄（MRT）は、東の端から西の端まで乗ってもたったの2.5ドル（=約200円）、タクシーも普段使いなら20ドル（=約1600円）を超えることは稀、縦横無尽に走るバスも1~2ドル程度で、個人的には自動車の必要性を感じたことはありません。このようにシンガポール政府は「お金を稼いだり持ったりしているだけだと課税しませんよ、でも、贅沢したい人は税金払ってね」という政策をとっており、メンツのためならお金を惜しみなく使うシンガポール人の心理をよく理解したやり方だと言わざるをえません。

II. 交通マナーは…

我らが香川県といえば、残念ながら全国的に見ても交通マナーが悪く、人口10万人あたりの交通事故件数、死者数が全国ワースト1という不名誉な記録を持っていますが、シンガポールの交通マナーは、そのさらに上を軽く飛び越えてきます。

まず、ウインカーを使わないドライバーが非

常に多くいます。バスですらウインカーを出さないことがあるために、自転車に乗っている時に巻き込まれそうになったこともあります。

車線変更の時も使いません。これは、こちらの「キアス文化」と呼ばれる「自分が1番」という気質によるのですが、ウインカーを出すと車間を詰めてきて割り込ませてくれないため、ウインカーを出さずにいきなり割り込みます。そうすると、すり抜け文化が当たり前のバイクを薙ぎ倒して死亡事故、と相成ります。リアル北〇の拳です。ハッハ-



後ろも壊れた状態です。走っていました。

かと思うと、一体どこで曲がるねん！とツッコミたくなるくらい延々と何十秒もウインカーを出したまま走る車もいたりして、もう何を信じてよいのか…

とにかくマナーが悪い、しかも運転が下手なため、街のそこら中で事故が起こります。数千万円する車が、あっちで「グシャ」、こっちで「メキョ」と威勢のよい音を立てて鉄クズと化す様子を見ることができます。

皆様もシンガポールにいらっしゃる際には、ぜひ街中を走っている車にも目を向けてみてください。また違ったシンガポール像が見えてくると思います。そして自動車大好き人間は「この国に生まれなくてよかった…」と胸を撫で下ろしてください。

ここしばらくメンバーの本帰国が続いておりますが、来星の際にはぜひ我々玉翠会シンガポール支部にご連絡をいただければと思います。メンバー全員で暖かくお迎えさせていただきます。その際は自動車ではなく、安全かつ安価なMRTでご案内したいと思います。